

野の 長根商店

キノコ加工で中国進出

現地2社と合弁会社

天然キノコの加工販売をしている洋野町中野の長根商店(資本金2千万円、長根繁男社長、従業員30人)は年内に中国で現地法人2社と合弁会社を設立し、中国現地に自生する天然キノコの加工販売に乗り出す。販売するのはキノコを加工した味付けキノコ。現地でも好評を得ているといい、急成長する中国市場での販路拡大を目指す。

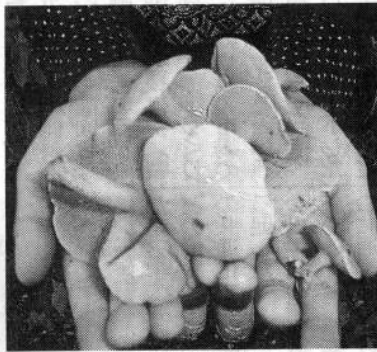


キノコの加工販売を手掛ける長根商店。同社の加工技術を生かした味付けキノコを中国市場に売り込む

同社は1994年から年ごらは年間約400万、中国雲南省の天然キノコを輸入し加工販売し、愛緑色食品有限責任公司(雲南省昆明市)を中国産食材が敬遠され、輸入量も減少。09年は年間約300トにとどまった。

味付けキノコは中国市場でも引き合いがあり、市場の有望性を踏まえて現地でアマタケやナラタケなどを調達し加工販売するビジネスを検討。キノコを収穫する昆明山之愛緑色食品有限責任公司、設備資本を提供する現地法人、加工技術を生かす長根商店の役割分担で合弁会社を立ち上げる。合弁会社は、水と空気がきれいで天然キノコの産地として知られる雲南省麗江市に建設中。延べ床面積約1万2千平方メートル。従業員

長根商店 食品小売業として1941年創業。60年天然キノコ卸販売開始、87年有限会社化、94年中国産キノコ加工販売開始。98年株式会社化。工場は第1工場(延べ床面積約1千平方メートル)と第2工場(同約400平方メートル)を構える。



中国雲南省などで採れる天然のアマタケ

を現地採用し、長根社長が加工技術を指導する。長根社長は「中国ではキノコ料理を食べる習慣が増えており需要が高まっている。日本式の味付けは中国でも評価が高く、この技術を中国に持ち込みたい」と意欲を示す。